

学 科	両学科	担 当 教 員	栗原 典子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	文学	科目区分	基礎科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	保育2年次・後期 服美1, 2年次・後期
授業の主題 目 標	<p>主題 文芸創作を行います。</p> <p>目標 ①文学とは何か(定義)について考えます。 ②様々なジャンルの文学について基本的な知識、技術を身につけるとともに、生涯学習としての文学の魅力や可能性についての理解を深めます。 ③文字を使った自己表現能力とコミュニケーション能力を高めます。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>授業では、インプットとして、日本と英米の詩や絵本、エッセー、小説等のジャンルごとに、基本的概念や歴史、代表的な作家・作品等を解説します。また、4冊の課題図書を読んで、授業の中でそれらの作品の特徴についてディスカッションをします。</p> <p>一方、アウトプットとしては、創作エクササイズやパワーライティングなど、アメリカの文芸創作教育のエクササイズによってライティング能力を高めていきます。また、詩や随筆などを書いて、全員で合評する活動も取り入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：文学とはなにか 2. 世界の文学について 3. 文学と映像① <日本> 4. 文学と映像② <英米> 5. 文学と映像③ <アジア> 6. 英文学について：英文字の特徴 7. 英文学について：作品鑑賞・解説 8. 詩：韻文と散文 9. 詩：作品鑑賞・解説 10. 絵本：絵本論入門 11. 絵本：作品鑑賞・解説 12. 絵本の創作：草案 13. 絵本の創作：推敲 14. ビブリオバトル 15. まとめ、発表 <p>定期試験は実施しない。</p> <p>受講生の学修状況や理解度を見て、進度や順序を調整する場合があります。</p>				
実務経験を 活かす内容	高等学校での実務経験を生かし、アクティブ・ラーニングを取り入れ、活発な産出を促進する実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	『つめたい夜に』江國香織 『流れる』幸田文				
準備学習の 具体的内容	自分がこれまで読んできた文学作品、あるいは課題の作品について批評を書いておく。				
評価の方法 基 準	授業での演習 (30%) 課題 (30%) 創作作品 (40%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	両学科	担 当 教 員	海本 友子		
授 業 科 目	国語表現		科目区分	基礎科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	保育1年次・前期 服美1, 2年次・前期
授業の主題 標 目	<p>国語の基礎学力を高めると共に、国語を磨こうとする意欲・態度を育てる。 国語に対する理解を深め、正確で明快な文章を書く力を養う。 国語による美しい表現や作品に接することを通して、文章感覚を磨くと共に、情操を豊かにしようとする心 情を培う。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序講, 自己紹介の工夫 2. 言葉と表現 (国の国語政策, 常用漢字, 同音訓異義語, 仮名遣いなど) 3. 正しい国語Ⅰ (文法) 4. 正しい国語Ⅱ (実用文) 5. 敬語の種類 6. 敬語の使い方 7. 文章の構成 8. 新聞の文章 9. 話す技術・聞く技術 10. 就職活動の準備Ⅰ (履歴書・エントリーシート) 11. 就職活動の準備Ⅱ (グループディスカッション) 12. 報道文・評論文 13. 日本の名文Ⅰ (小説・随筆より) 14. 日本の名文Ⅱ (評論分より) 15. まとめ, 期末テスト 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>テキスト 大学生のための日本語表現実践ノート (米田明美他, 風間書房) 参考図書 頭がいい人の文章の書き方 (小泉十三他, 河出書房新社) 話す力が面白いほどつく本 (櫻井弘, 三笠書房)</p>				
準備学習の 具体的内容	指定したテキストの範囲の演習問題を準備学習として課す。				
評価の方法 基 準	<p>授業への取り組み (30%) レポート (20%) 期末テスト (50%)</p>				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	両学科	担 当 教 員	矢吹 香月		
授 業 科 目	日本国憲法	科目区分	基礎科目	2 単 位	
必修・選択	保育 必修 服美 選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	保育1年次・後期 服美1, 2年次・後期
授業の主題 目 標	日本国憲法が保障している基本的人権について、判例を題材として日常生活の側面からアプローチして基本的な解説を行う。日常生活における身近な社会問題から、個を尊重し、他者も尊重するために必要なルールについて考える力を身につけ、現代社会の様々な事象を憲法価値の実現の視点で考える。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 法について 2. 憲法とは (1) 憲法の目的 3. 憲法とは (2) 2つの憲法の間 4. 憲法と司法 (1) 裁判所のはたらき 5. 憲法と司法 (2) 違憲審査制について 6. 日本国憲法を生んだ密室の9日間 (DVD) 7. 人身の自由 8. 政治の仕組み・内閣のはたらき 9. 憲法と消費者 (1) 憲法と民法の関係 10. 憲法と消費者 (2) 営業の自由と消費者の権利 11. 憲法と消費者 (3) 医療契約から自己決定権について考える 12. 憲法と家族 (1) 結婚について考える 13. 憲法と家族 (2) 女性の人権 14. 憲法と家族 (3) 子どもの人権 15. まとめ・期末試験 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	「憲法のちから～身近な問題から憲法の役割を考える～」中富公一編 法律文化社				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験 (70%) 授業毎に提出するレポート (30%)				
履 修 上 の 注 意	中学校・高等学校の社会科を復習すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	秋川 陽一		
授 業 科 目	教育学	科目区分	基礎科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・後期
授業の主題 目 標	<p>受講者が自分の受けてきた教育や学び（学校のみならず家庭・地域社会で受けてきた教育・学び）の体験を振り返りながら、「教育とは何か？」について考察することを通して、教育学についての基礎的な知見を獲得することを主題とする。</p> <p>この考察を通じて、自らの今後の生き方と教育・学びのあり方、さらに、将来、おとな（親）として子どもの教育に関わる際の重要な考え方をしっかりと身につける。</p> <p>なお、保育・子育て支援のプロを養成する他学科（＝保育学科）での学修内容を知る機会にもしたいので、幼児教育・保育、子育て支援に関する内容について比較的多くの学修時間をとりたい。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODakション：自分の受けてきた「教育」を振り返ろう 2. 「教育」の意味—私たちが考える「教育」とは？ 3. 学校はなぜ作られ、どう発展してきたのか？ 4. 教育を受ける（学ぶ）ことの意義を考える—「教育基本法」の理念 5. 公教育とは？—「義務」「無償」「中立」の原則 6. 新しい学習指導要領が目指す教育改革とは？ 7. 乳幼児の教育・保育の場と幼保一元化—幼稚園・保育所・認定こども園等の役割 8. 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の教育・保育の内容・方法を考える 9. 幼児教育・保育の無償化はなぜ行われたのか？ 10. 現代の子ども・子育て支援(1)—その制度と現状の概要 11. 現代の子ども・子育て支援(2)—保護者の多様なニーズと今後の課題 12. 「子どもの権利条約」の精神と教育における人権保障を考える 13. 「子どもの権利条約」における子どもとおとな（親）の関係性を考える 14. これからの教育の在り方を考える—「Society 5.0」「Education 2030」の想定する社会・教育の構想を踏まえて 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>テキストは使用せず、毎回、講義レジュメ・資料を配付する。</p> <p>参考書として、以下の文献を推薦する。</p> <p>中澤 渉『日本の公教育 - 学力・コスト・民主主義』中公新書（中央公論社）</p> <p>安藤 寿康『なぜヒトは学ぶのか：教育を生物学的に考える』講談社現代新書（講談社）</p>				
準備学習の 具体的内容	毎回の授業後の振り返りを行いながら、次回の授業内容について事前に目を通しておくこと。				
評価の方法 基 準	<p>終講時のレポート（70%）</p> <p>授業前・後の「学習課題」の提出（30%）</p>				
履 修 上 の 注 意	本授業は、将来、一人のおとな（親）として、子育て・教育を行うであろう学生を対象としていますが、保育・子育て支援のプロを養成する保育学科での学修も意識して授業を行いますので、保育学科の学びに関心のある学生の受講を希望します。				

学 科	両学科	担 当 教 員	高橋 和成		
授 業 科 目	生命科学	科目区分	基礎科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	保育1年次・後期 服美1, 2年次・後期
授業の主題 目 標	今日の科学技術の発展は人類の生活を豊かにしてくれる一方で、自然や多くの生物に新たな負荷や脅威を引き起こしている。社会の中で個人が健康で安全安心な生活と人生を送るためには、地球環境問題や生命の仕組みについて基本的な知識をもとに、激動する社会と地球環境の中で思考する力や探求する力が欠かせない。生命科学では、人類を含めた地球に生きる生物相互のつながりや生物多様性、及び生物の進化を学び、生命のしくみとヒトの体に関して科学的な知識を深める。全体を通して、今日の地球環境や人の健康に関する諸問題に気づき、社会や個人のレベルで考え行動する力を身につけることをねらいとする。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャンパス内の生物観察（野外実習） 2. 生物と環境の関わり 3. 科学データの解析法 4. 世界と日本の生物多様性 5. 生態系サービス 6. 微生物とその働き 7. 地球環境問題（課題レポート） 8. 生物の進化と系統 9. 進化のしくみ 10. 人類の進化（課題レポート） 11. 生物地理について 12. ヒトの染色体と遺伝子（課題レポート） 13. DNA と遺伝子について 14. ヒトの神経系とホルモン調節 15. 体を守る免疫について（小テスト） <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>パワーポイントのスライド、配布プリント</p> <p>参考書：生命科学講義 石浦章一 羊土社</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>講義はスライドで進めます。</p> <p>毎回の授業のまとめの提出で出欠確認と評価をします。</p> <p>内容がメモできなかった時には、インターネットや図書館などの利用で情報収集をして理解を深めてください。</p> <p>ノートは授業の記録として作成し、授業プリントや実習などのプリントとともにファイリングをし、復習や小テスト対策に役立てましょう。</p>				
評価の方法 基 準	<p>小テスト(1回, 20%)</p> <p>課題レポート (30%)</p> <p>授業まとめの提出 (50%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>最初の講義でキャンパスの植物調査をしますので、動きやすい服装で参加して下さい。</p> <p>実習では、ハサミ、糊、色鉛筆などを必要とすることがあります。</p> <p>小テストでは、授業ノートの持ち込み可とします。</p>				

学 科	両学科	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	数学	科目区分	基礎科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授業の主題 目 標	<p>学生が、中学・高校までの数学の問題に取り組むことで数学的な考え方を習得する。 教養として数学を概観する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学数学・高校数学の基礎の復習 2. 数と式（展開・因数分解） 3. 数と式（有理数・無理数・素数） 4. 方程式と不等式 5. 2次関数（最大・最小・グラフ） 6. 2次不等式 7. 2次方程式の解の公式、解と係数の関係 8. 図形と計量（余弦定理・正弦定理） 9. 図形と計量（相似・球の体積と表面積） 10. 順列・順列・重複順列 11. 組み合わせ 12. 確率 13. 平面図形 14. 集合と論理 15. 総合演習 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	長岡 亮介 著；高校総合的研究 シリーズ総合的研究 数学 I+A（参考書）				
準備学習の 具体的内容	<p>高等学校での数学 I，数学 A の教科書を復習しておくことが望ましい。 中学での相似・三角形の合同などを復習しておくことが望ましい。</p>				
評価の方法 基 準	<p>授業態度（20%） 授業中で行う演習課題（80%）</p>				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	両学科	担 当 教 員	澤田 陽一		
授 業 科 目	心理学	科目区分	基礎科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	保育2年次・前期 服美1, 2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>心は実体ではなく、身体とそれを取り囲む環境を場として働く機能である。これを踏まえ、本講義では様々な視点から、心にまつわる主要な知見を紹介する。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) 様々な心理学の知見を通して、人間を多方面から理解する。</p> <p>(2) 特に、科学的な心理学の知見を理解し、実生活に位置づける。</p> <p>(3) 心理学という学問を好きになる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学事始 <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・心理学とは何か 2. 心理学の歴史 <ul style="list-style-type: none"> ・古代/中世の心理学 ・近代以降の心理学 3. 感覚・知覚・認知 <ul style="list-style-type: none"> ・表象とは何か 一世界を把握するプロセス 4. 記憶と学習 <ul style="list-style-type: none"> ・記憶の種類とメカニズム 5. 言語/思考と知能 <ul style="list-style-type: none"> ・意識と言語の関係 ・知能の諸側面 6. 情動/感情 <ul style="list-style-type: none"> ・情動/感情の役割 ・情動/感情の諸理論 7. パーソナリティ <ul style="list-style-type: none"> ・パーソナリティを捉える方法 ・対人認知と印象形成 8. 発達Ⅰ：他者意識の発達 <ul style="list-style-type: none"> ・人間の発達の特異性 ・他者身体の獲得と模倣行動 9. 発達Ⅱ：自己意識の発達 <ul style="list-style-type: none"> ・身体的自己からメタ認知へ 10. 社会的影響 <ul style="list-style-type: none"> ・集団から影響を受ける個人の特徴 11. 心の臨床と健康 <ul style="list-style-type: none"> ・心の病と心理・精神療法 ・ストレス理論と健康 12. 脳と心 <ul style="list-style-type: none"> ・脳から行動（心理）を捉える 13. 社会の中に潜在する共通心理 <ul style="list-style-type: none"> ・損失の過大視と社会的行動 14. 不思議現象を信じる心 <ul style="list-style-type: none"> ・体験こそが強固な信念を作り出す 15. 総括・試験 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・指定のテキストはなく、毎回オリジナルプリントを配布する。 ・参考図書として『ヒルガードの心理学 第16版』を挙げるが、あくまでオリジナルプリントを活用する。 				
準備学習の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義では非常に多くの専門用語が提示されるため、それらを定着するために図書館やインターネット等を活用して復習することが必要である。 				
評価の方法 基 準	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、試験（100%）のみで評価する（状況に応じてレポートに切り替える場合がある）。 				
履 修 上 の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁。 ・講義で扱う専門用語が少ないため講義外での復習が必須である。 				

学 科	保育学科	担 当 教 員	唐澤 克樹		
授 業 科 目	経済学入門	科目区分	基礎科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>【主題と概要】経済や経済学と聞くと、難しい印象をもつかもしい。しかし、私たちの生活と経済は密接に関係している。本講義では、主に生活者の視点から、生活と経済がどのように関わっているか、経済の仕組みによって生活がどのように規定されているか、について考察することが目的である。初学者が学びやすい講義と位置づけ、身近な生活から経済や経済学に対する理解を深めたい。</p> <p>【到達目標】目標は、①経済学の用語や基本的な考え方を理解すること、②経済の前提となる社会全体へ関心をもつこと、③経済や社会全体で生じている諸問題について理解を深め自分なりの意見がもてるようになることである。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 講義の概要、社会科学の考え方、家政学や経営学など諸学問との関係、学ぶと働く 2. 現代社会と生活—日常生活から経済を考えてみよう— 生活、財・サービスの流れ、経済活動、グローバルとローカル、資本主義、国民経済 3. グローバル化—グローバル化が私たちの生活に与える影響— グローバル化とは、国際貿易、海外投資、経済統合、企業の海外進出、FTA、EPA、TPP 4. 企業と市場 (1) —経済活動における企業の役割— 企業の役割、企業の形態、市場の動き、市場の限界、価格調整 5. 企業と市場 (2) —大企業と中小企業を比べてみよう— 大企業と中小企業を区分する理由、中小企業政策、産業構造、働く場としての企業 6. お金 (1) —お金の流れと金融機関の役割— 貨幣、お金の流れ、金融機関、金融政策、国際金融、国際通貨、外国為替 7. お金 (2) —財政と行政機関の役割— 政府とは、財政、財政健全化、行政機関、公共サービス、税金、納税 8. 働く (1) —就職活動と働き方— 労働市場、就職・就職活動、労働政策、働き方、ワークライフバランス、労働組合、労働運動 9. 働く (2) —働き過ぎ問題と働くためのルール— 働き過ぎ、失業、過労死・過労自殺、働くためのルール、人間らしい生き方を求めて 10. 少子化と高齢化—少子化と高齢化がもたらす諸問題— 地域福祉、社会政策、高齢化問題、少子化問題 11. 子育てと保育制度—保育制度と保育士の労働問題— 保育制度、保育所、保育労働と労働運動、地域の子育て支援 12. 地域と経済 (1) —地域問題と活性化— 地域が衰退する要因、まちづくり、地域活性化 13. 地域と経済 (2) —倉敷市はどのような街か— データで見る倉敷市、都市構造、水島コンビナートの開発と課題 14. 環境と経済—経済成長と環境問題— 経済成長、地球環境問題、大量生産・大量消費・大量廃棄、途上国、公害問題、環境政策 15. 講義のまとめ—持続可能な社会を作る— 豊かさとは何か、持続可能性 (サステナビリティ)、SDGs <p>定期試験は実施しない</p> <p>【授業の進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付資料、板書によって授業を展開する。写真、映像、スライドを活用することがある。 ・毎回の授業の冒頭に、最近の気になるニュース (必ずしも経済ニュースである必要はない) を報告する。 ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパー (授業コメント) を記入する。 ・リアクション・ペーパーと併せて授業内課題 (ミニレポートなど) を提示することがある。 ・授業内容などを踏まえたディスカッションを行うことがある。 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【教科書】ゼロからはじめる経済入門 横浜国立大学経済学部 有斐閣 2,530 円 テキスト・プロジェクトチーム</p> <p>【参考書】高校生からの経済入門 中央大学出版部 中央大学出版部 990 円 ※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は講義内で適宜紹介する。</p>				
準備学習の 具体的内容	教科書を読んだ上で授業に臨むこと。 新聞やWebなどで日々のニュースを知り、自分なりの考えをもつこと。				
評価の方法 基 準	期末レポート (80%) 授業内課題 (20%)				
履 修 上 の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容は、受講生の興味関心や社会情勢の変化などによって変更となる場合がある。 ・毎授業、リアクション・ペーパーの記入と提出が必要である。 				

学 科	保育学科	担 当 教 員	岩崎 之勇 (実務経験あり)		
授 業 科 目	経営学入門		科目区分	基礎科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>【授業の主題】 経営学に関する基礎的研究, 及び経営学に関する基礎的事例研究について理解する。具体的には, 企業の経営戦略, 経営管理, 人的資源管理, 会計・財務, 生産・研究開発, マーケティングなどの主要論点を学ぶ。</p> <p>【授業目標】 1. 経営学の全体像を理解する。 2. 経営学で用いられる基本的用語を理解する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要・ガイダンス 会社の経営とは 2. 経営戦略(1) 会社はどのような方針で動くのか 3. 経営戦略(2) 会社はどんな仕組みで動いているのか 4. 経営戦略(3) 会社はどう競争するのか 5. マーケティング(1) 会社はどのようにモノを売るのか 6. マーケティング(2) 会社はどのように市場を理解するのか 7. 経営管理と組織(1) 会社はどのように管理されるのか 8. 経営管理と組織(2) 会社はどのような組織なのか 9. 人的資源管理(1) 社員はなぜ働くのか 10. 人的資源管理(2) 社員はどのように報酬を求めるのか 11. 生産管理 会社はどのようにモノを生産するのか 12. 製品開発 会社はどのように製品を開発するのか 13. 会計 会社はカネをどう管理するのか 14. 企業倫理 会社はどんな社会的責任があるのか 15. まとめ・試験 これまでの授業内容を振り返りと試験の実施 				
実務経験を 活かす内容	一般企業での実務経験を生かし, 個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成・評価・修正課程 (PDCA サイクル) に関して実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	【参考文献】 井原久光 (編) 2016, 『経営学入門・キーコンセプト』 ミネルヴァ書房				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で, 特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	両学科	担 当 教 員	佐藤 由美子		
授 業 科 目	キャリアデザイン	科目区分	基礎科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1年次・前期
授業の主題 目 標	<p>多様化する社会において、勝ち抜くために何が必要かを考え、自己実現に必要な知識、技能を修得することが目標。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア」「キャリアデザイン」を考えることの大切さを知る。 ・学校でのキャリア教育の意義と現状を理解する。 ・社会性の大切さを知る。 ・多様な生き方、働き方、価値観を理解する。 ・就職環境、就職活動に関する正しい情報を知り、積極的に行動する。 ・マナーやコミュニケーションの大切さを理解する。 ・自分と向き合うことで自己理解を深める。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (1) 授業内容と進め方、成績評価等 (2) シラバス説明 (3) キャリアデザインの意味 2. キャリア形成とは (1) キャリアの理論 (2) 自分の適正、志向を考えることの意味 (3) 自分の過去を振り返る (シート記入) 3. 大学生活とキャリア (1) 多様なキャリア形成の事例 (ディスカッション) 4. 社会性とは (1) なぜ社会性が必要か (2) 自分に社会性はあるか (3) 事例から学ぶ 5. コミュニケーション (1) 社会で求められる能力 (2) コミュニケーションの重要性 (3) コミュニケーションの事例から学ぶ 6. 仕事と社会 (1) 社会人基礎力 (2) ワークライフバランス (3) キャリアルート 7. 企業が求める能力とは (1) 企業でのキャリア形成 (2) 仕事のやりがい 8. 就職に勝ち抜くために (1) 就職活動の流れ (2) スケジュール (3) 業界研究会-会社四季報をもとに (4) インターンシップとは (5) 求められる人材とは 9. 就職活動の進め方 (1) 自己分析 (2) 自己PR (グループに分かれ、他己紹介) (3) 志望動機の書き方 (見本) 10. 履歴書の書き方 (文字の書き方・必要項目の確認) と作成 11. 面接の心構えとは&トレーニング (面接種類・入退出・椅子の立ち方座り方) 12. マナー (1) 挨拶・お辞儀の仕方 (2) 敬語 (尊敬語・謙譲語・丁寧語の作り方) (3) 言葉遣い 13. 人生とキャリア (1) 自分の強みと志向 (2) 自分にとってのキャリアプラン (3) 短期大学時代の過ごし方を考える 14. グループワーク演習 15. 授業の振り返り (1) 振り返り・まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>「勝つための就職ガイド SUCCESS」 (ウィネット ISBN978-4-87284-720-8 C0030 ¥800+税)</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>テキストの内容を周知し、既読すること。 また、シラバスに沿って必要な場合はWEB上で配布。</p>				
評価の方法 基 準	<p>授業に取り組む姿勢 (グループワーク、発言等) (30%) 中間課題 (履歴書等) (30%) レポート (40%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>積極的な授業参加を期待します。</p>				

学 科	保育学科	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報機器の操作 I		科目区分	基礎科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>学生が、ワード、エクセルを利用したレポート作成ができるように指導する。 遠隔授業に対応できるように Google Classroom と Meet の利用方法を学習する。 インターネットによる情報検索、電子メールによる情報交換の基礎を修得する。 Google apps for education によるメール・ドライブ・共有等の基本操作を習得し、クラウド環境を教育・研究活動で活用できるようにする。 パワーポイントによるプレゼンテーションを行えるようにする。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>受講生がパソコンを実際に操作しながら、ウインドウズ、ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、電子メール等の基本操作に精通するように指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PC へのログイン, Google Workspace/Google Classroom 2. Windows ファイル操作, USB メモリ保存/タッチタイピング 3. Google メール・ドライブ活用・インターネット検索 4. ビデオエディターによる動画編集 5. ワード基礎 1 (ページ設定, ページ番号等) 6. ワード基礎 2 (罫線・表作成) 7. エクセル基礎 (表計算・セル計算平均・標準偏差・分散) 8. エクセル基礎 (データベース, countif, 円グラフ) 9. エクセル基礎 (ピボットテーブル・分析ツール・ヒストグラム) 10. エクセルによる集計・分析 (並び替え, DB 関数) 11. インターネット検索・情報セキュリティー 12. スキャナー取り込み, 添付ファイルの送受信 13. パワーポイント基礎 14. パワーポイント発表 1 (第 1 グループ) 15. パワーポイント発表 2 (第 2 グループ) <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>参考書:保育者のためのパソコン講座—Windows 7 Office2007/2010/2013 対応版;阿部 正平 (著), 二宮 祐子 (著), 阿部 和子 (著); 萌文書林 幼稚園教育要領</p>				
準備学習の 具体的内容	タッチタイピングの練習をしっかりと行うこと。				
評価の方法 基 準	<p>授業態度 (20%) 授業中で行う演習課題 (60%) 発表会 (20%)</p>				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育学科	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報機器の操作Ⅱ		科目区分	基礎科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	Adobe Creative Cloud を用いて、印刷デザイン、ビデオ編集、Web 作成などを学習する。 学習成果 (learning outcomes) を e ポートフォリオ (PDF) でまとめ、小冊子印刷できるようにする。 Google apps によるサイト制作と Web アンケートについての学習を通じてクラウド上でのデータ操作に習熟する。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の基礎 2. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の演習(1)素材収集 3. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の演習(2)動画作成 4. 就活サイト・SPI テスト対策活用法 5. DTP ソフト Adobe Indesign の基礎 (文字入力・画像配置) 6. DTP ソフト Adobe Indesign の応用(1)フライヤー作成 (資料収集) 7. DTP ソフト Adobe Indesign の応用(2)フライヤー作成 (制作) 8. Adobe Illustrator による名刺作成 (テンプレート利用・文字入力・画像配置) 9. Adobe Illustrator による名刺作成 (制作) 10. Adobe DC による PDF ファイル統合による e-ポートフォリオ作成。小冊子印刷。 11. キャリア支援室カラーレーザープリンター講習会 12. Google フォームによるアンケート集計・分析 (フォーム作成) 13. Google フォームによるアンケート集計・分析 (アンケートの実施) 14. Google フォームによるアンケート集計・分析 (分析のまとめ) 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	参考書:保育者のためのパソコン講座—Windows 7 Office2007/2010/2013 対応版;阿部 正平 (著), 二宮 祐子 (著), 阿部 和子 (著) ; 萌文書林 幼稚園教育要領				
準備学習の 具体的内容	タッチタイピングの練習をしっかりと行うこと。				
評価の方法 基 準	授業態度 (20%) 授業中で行う演習課題 (60%) 発表会 (20%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報処理演習 I	科目区分	基礎科目	1 単 位	
必修・選択	選択必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>学生が、ワード、エクセルを利用したレポート作成ができるように指導する。 遠隔授業に対応できるように Google Classroom と Meet の利用方法を学習する。 インターネットによる情報検索、電子メールによる情報交換の基礎を修得する。 Google apps for education によるメール・ドライブ・共有等の基本操作を習得し、クラウド環境を教育・研究活動で活用できるようにする。 パワーポイントによるプレゼンテーションを行えるようにする。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>受講生がパソコンを実際に操作しながら、ウインドウズ、ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、電子メール等の基本操作に精通するように指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PC へのログイン, Google Workspace/Google Classroom 2. Windows ファイル操作, USB メモリ保存/タッチタイピング 3. Google メール・ドライブ活用・インターネット検索 4. ビデオエディターによる動画編集 5. ワード基礎 1 (ページ設定, ページ番号等) 6. ワード基礎 2 (罫線・表作成) 7. エクセル基礎 (表計算・セル計算平均・標準偏差・分散) 8. エクセル基礎 (データベース, countif, 円グラフ) 9. エクセル基礎 (ピボットテーブル・分析ツール・ヒストグラム) 10. エクセルによる集計・分析 (並び替え, DB 関数) 11. インターネット検索・情報セキュリティ 12. スキャナー取り込み, 添付ファイルの送受信 13. パワーポイント基礎 14. パワーポイント発表 1 (第 1 グループ) 15. パワーポイント発表 2 (第 2 グループ) <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	令和 03 年 IT パスポートの 新 よくわかる教科書 (情報処理技術者試験) (日本語) 単行本 原山 麻美子 (著); 技術評論社				
準備学習の 具体的内容	タッチタイピングの練習をしっかりと行うこと。				
評価の方法 基 準	授業態度 (20%) 授業中で行う演習課題 (60%) 発表会 (20%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報処理演習Ⅱ		科目区分	基礎科目	1 単 位
必修・選択	選択必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年 次 ・ 後 期
授業の主題 目 標	Adobe Creative Cloud を用いて、印刷デザイン、ビデオ編集、Web 作成などを学習する。学習成果 (learning outcomes) を e ポートフォリオ (PDF) でまとめ、小冊子印刷できるようにする。 Google apps によるサイト制作と Web アンケートについての学習を通じてクラウド上でのデータ操作に習熟する。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の基礎 2. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の演習(1)素材収集 3. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の演習(2)動画作成 4. 就活サイト・SPI テスト対策活用法 5. DTP ソフト Adobe Indesign の基礎 (文字入力・画像配置) 6. DTP ソフト Adobe Indesign の応用(1)フライヤー作成 (資料収集) 7. DTP ソフト Adobe Indesign の応用(2)フライヤー作成 (制作) 8. Adobe Illustrator による名刺作成 (テンプレート利用・文字入力・画像配置) 9. Adobe Illustrator による名刺作成 (制作) 10. Adobe DC による PDF ファイル統合による e-ポートフォリオ作成。小冊子印刷。 11. キャリア支援室カラーレーザープリンター講習会 12. Google フォームによるアンケート集計・分析 (フォーム作成) 13. Google フォームによるアンケート集計・分析 (アンケートの実施) 14. Google フォームによるアンケート集計・分析 (分析のまとめ) 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	参考書：レイアウト, 基本の「き」 (日本語) 佐藤直樹 (著), ASYL (著)				
準備学習の 具体的内容	タッチタイピングの練習をしっかりと行うこと。				
評価の方法 基 準	授業態度 (20%) 授業中で行う演習課題 (60%) 発表会 (20%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	両学科	担 当 教 員	栗原 典子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	英語 I (コミュニケーション)	科目区分	基礎科目	1 単 位	
必修・選択	保育 必修 服美 選択必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>主題：コミュニケーションを主体とした英語力の育成。 目標：英語という媒体で「読むこと」、「聴くこと」から、「理解すること」、「考えること」へと活動を発展させ「自分の考えを英語で表現する」力を身につける。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>奇跡や感動、サクセスにまつわる世界の知られざる物語を英語で読むことにより、英語表現を学ぶと共に、英文の文章構成や、内容理解を深め、題材として扱われているトピックに関して考える。さらに自分の考えを他者とのやり取りの中で深めていくという活動を次の物語を扱いながら進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「音で見た少年」 2. 「コブラと共に生きる村」 3. 「ストーンヘンジの奇跡」 4. 「最後の時の過ごし方」 5. 「祖父母をつないだ謎の言葉」 6. 「ペトラの老女」 7. 「モラーおじさんの鳥」 8. 「世界を変えた想像力」 9. 「現代の万能人」 10. 「一人の思いが世界を動かす」 11. 「ある富豪の人生」 12. 「勇気の炎」 13. 「戦いは戦争の後に」 14. 「ネハンダの骨」 15. 「文化の違いを超えて」、期末試験 <p>物語を読んだ後、語彙演習、内容理解の問題演習のほか、物語の感想を英語で書く活動と、グループで感想を話し合う活動を行い、総合的な英語力の向上を目指す。</p> <p>毎時間小テストを実施します。</p>				
実務経験を 活かす内容	<p>高等学校での実務経験を生かし、アクティブ・ラーニングを取り入れ、活発な産出を促進する実践的教育を行います。</p>				
テ キ ス ト 教 材	『Reading Trek』 金星堂				
準備学習の 具体的内容	<p>授業で扱う物語を読んでから、自分の感想をまとめておく。 物語で扱われる英語表現を確実に自分のものにする。</p>				
評価の方法 基 準	<p>授業への積極的参加 (30%) 小テスト (30%) 定期試験 (40%)</p>				
履 修 上 の 注 意	授業は学科別です。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	栗原 典子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	英語Ⅱ(コミュニケーション)	科 目 区 分	基礎科目	1 単 位	
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年 次 ・ 後 期
授業の主題 目 標	<p>主題：保育英語の演習を行い、保育現場でのコミュニケーションを実践する英語力の育成をはかる。 目標：グローバル化の進む保育現場において、リスニングとスピーキングを主体として、英語による平易なコミュニケーションを可能にする表現を身につけることにより、「わかる」だけでなく「使える」英語力を身につける。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>下記のトピックに従って、幼児教育の場の与えられた状況で使用される英語表現を学び、「聞く」「話す」「読む」「書く」を活動として行うことで、実践的な英語力を身につけていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (1) The School Year Begins (2) Arrival 2. (3) Playtime in the Classroom (4) In the Sandbox 3. (5) In the Playground (6) Lunchtime 4. (7) Changing Clothes and Story Time (8) Nap Time 5. (9) Blowing Bubbles (10) A Sick Child 6. Grammar 1, Grammar 2, 中間試験 7. (11) Preparation for the Sports Day (12) The Sports Day 8. (13) Going for a Walk (14) Discovering Autumn 9. (15) Drawing and Letter Writing (16) A Snowy Day 10. (17) Leaving for Home (18) School Diary 11. (19) Bean-Throwing Day (20) With Thanks for a Wonderful School Year 12. Grammar 3, Grammar 4, 復習 13. 期末試験 14. 発表(Group 1) 劇遊び等 15. 発表(Group 2) 劇遊び等 <p>毎時間、小テストを実施します。 幼稚園や保育園での生活をテーマに、絵本の作成や、劇遊びの発表を最終目標として組み込み、多様な文化背景を持つ子どもたちに対応できるコミュニケーション能力の修得に努めます。</p>				
実務経験を 活かす内容	<p>高等学校での実務経験を生かし、アクティブ・ラーニングを取り入れ、活発な産出を促進する実践的教育を行います。</p>				
テ キ ス ト 教 材	『新 保育の英語』三修社				
準備学習の 具体的内容	<p>授業で扱うトピックに関連する幼児教育現場での課題について考えてくる。 授業で扱った実用的な英語表現を確実に覚える。</p>				
評価の方法 基 準	<p>積極的な授業参加(30%) 定期試験(40%) 発表(30%)</p>				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	栗原 典子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	英語Ⅱ(コミュニケーション)	科目区分	基礎科目	1 単 位	
必修・選択	選択必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1年次・後期
授業の主題 目 標	<p>主題：TOEIC の英語演習を行います。 目標：TOEIC の演習を通して、日常生活や、ビジネスのコミュニケーションにおいて使用される英語表現に慣れ、実際に「使える」力を身につけます。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>基礎から応用へと配置されたTOEICの練習問題を解きながら、TOEIC受験に向けた実践的トレーニングを繰り返します。トピックごとに異なる状況での英語表現を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 模擬テスト 2. Travel / Dining out 3. Media 4. Entertainment 5. Purchasing 6. Clients 7. Recruiting 8. Personnel 9. Advertising 10. Meetings 11. Finance 12. Offices 13. Daily Life 14. Sales and Marketing 15. Events, 期末試験 <p>毎時間小テストをして、語彙力強化を図ります。 聞き取りと読解だけでなく、会話練習も組み込み、実践的な英語力向上を目指します。</p>				
実務経験を 活かす内容	<p>高等学校での実務経験を生かし、アクティブ・ラーニングを取り入れ、活発な産出を促進する実践的教育を行います。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<p>『The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test』金星堂</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>授業で扱うユニットのReading 問題を一通り答えておく。 毎時間の重要語彙は確実に覚えておく。</p>				
評価の方法 基 準	<p>積極的な授業参加(30%) 小テスト(30%) 定期試験(40%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>英語Ⅰ(コミュニケーション)か、英語Ⅱ(コミュニケーション)のどちらか1つは必ず受講してください。</p>				

学 科	両学科	担 当 教 員	栗原 典子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	英語Ⅲ	科目区分	基礎科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>主題：コミュニケーションを主体とした英語力の育成。 目標：英語という媒体で「読むこと」、「聴くこと」から、「理解すること」、「考えること」へと活動を発展させ、自分の「考えを英語で表現する」力を身につける。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>「言語」、「文化」、「旅行」、「グローバル問題」などのトピックに関する英文に触れ、自分の生きている世界について、考え、それを表現し、対話するというプロセスから、実践的な英語力の育成を図ります。下記のトピックについて考えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒッチハイクで世界一周 2. オリンピックの精神 3. あいさつの威力 4. 僕のホテルはどこなんだ！ 5. 世界とのつながり 6. おかえりなさい！ 7. 人生の極意 8. この席空いていますか？ 9. 世界の宗教 10. 留学のすすめ 11. 最も難しい言語とは？ 12. 窮屈な惑星 13. 単語で行き詰まったら・・・ 14. 地雷にご用心！ 15. 世界市民とは？ <p style="text-align: right;">＜期末試験＞</p> <p>毎時間単語や用言の小テストを実施します。 様々な社会の問題について英語で話し合う活動を取り入れていきます。 進度については、適時変更の可能性がります。</p>				
実務経験を 活かす内容	<p>高等学校での実務経験を生かし、アクティブ・ラーニングを取り入れ、活発な産出を促進する実践的教育を行います。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<p>「Off to the World!」 金星堂</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>授業で扱うトピックについて自分で気づいたことをまとめておく。 授業で扱った英語表現は確実に覚える。</p>				
評価の方法 基 準	<p>積極的な授業参加(30%) 小テスト(30%) 定期試験(40%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>なし</p>				

学 科	両学科	担 当 教 員	栗原 典子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	英語IV	科目区分	基礎科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2年次・後期
授業の主題 目 標	<p>主題：コミュニケーションを主体とした英語力の育成。 目標：英語で「聴くこと」「見ること」、さらに「読むこと」から、「理解すること」、「考えること」へと活動を発展させ、自分の「考えを英語で表現する」力を身につける。この時、アメリカをはじめとする世界の国々の事情を知らせるニュースをトピックとして、実践的な英語力の育成を図る。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>アメリカのテレビ・ニュースを題材とした教科書で、様々な出来事を報道がどのように伝えるか、また、一般庶民がどのようにそれをうけとめているかに注目しながら、世界の動向に関する知識を蓄えながら、考える活動を行う。報道に使用される語彙・表現とともに、ニュースに登場する略語なども学ぶ。 トピックは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 98歳のシスター、チームの勝利に貢献 2. 夢の血液検査は本物？ 3. 宝くじで大当たり 4. 迷惑電話を撃退する方法 5. 海洋生物の生態 6. 中国の宇宙ステーションが地球に墜落？ 7. 息子が作った父の新しい腕 8. トランプ大統領、銃規制へ 9. ボブスレー選手はグリーンベレー 10. ペットボトルがサングラスに 11. シリア難民の子供たちの毎日 12. キング牧師、没後50年 13. メキシコの麻薬製造現場からレポート 14. 米中の貿易戦争 15. フェイスブックから個人情報大量流出 <p>期末試験は実施しない。 毎時間小テストをします。</p>				
実務経験を 活かす内容	<p>高等学校での実務経験を生かし、アクティブ・ラーニングを取り入れ、活発な産出を促進する実践的教育を行います。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<p>『ABC WORLD NEWS TONIGHT』 金星堂</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>授業で予定している課のニュース・ストーリーを読んでくる。 また、関連するトピックについて調べてくる。</p>				
評価の方法 基 準	<p>積極的な授業参加(50%) 小テスト(50%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>なし</p>				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	石井 成人		
授 業 科 目	フランス語 I		科目区分	基礎科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開講時期	1, 2年次・前期
授業の主題 目 標	英語とは異なるフランス語の文字と発音, 文法, 仕組みの基礎を知り, 言語についての理解を深める。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 冠詞と名詞 3. 演習 (冠詞と名詞) 4. ER 規則動詞 5. 演習 (ER 規則動詞) 6. 否定形・疑問形 7. 演習 (否定形・疑問形) 8. 不規則動詞 AVOIR 9. 演習 (不規則動詞 AVOIR) 10. 不規則動詞 ETRE 11. 演習 (不規則動詞 ETRE) 12. 形容詞の性・数一致 13. 演習 (形容詞の性・数一致) 14. まとめ 15. 総復習・試験 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	教室にてプリント配布, また参考書・辞書等指示 参考: プチロワイヤル仏和辞典 (旺文社), コンコルド和仏辞典 (白水社)				
準備学習の 具体的内容	通常授業の中で頻繁に行われる演習の際, 常に既習仏語文法項目を確認, 復習, 整理すること。				
評価の方法 基 準	通常の授業の取り組み (30%) 課題 (30%) 複数回予定の小試験 (20%) 定期試験 (20%) の総合評価				
履 修 上 の 注 意	前後期通じて第二外国語・フランス語を学習するので, 基本的に後期の受講は, 前期履修者, またはフランス語学習経験あり, とする。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	石井 成人		
授 業 科 目	フランス語Ⅱ		科目区分	基礎科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・後期
授業の主題 目 標	英語とは異なるフランス語の文字と発音, 文法, 仕組みの基礎を知り, 言語についての理解を深める。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. その他の不規則動詞活用変化 3. 演習 (その他の不規則動詞活用変化) 4. 人称代名詞 5. 演習 (人称代名詞) 6. 代名動詞 7. 演習 (代名動詞) 8. 半過去形 9. 演習 (半過去形) 10. 複合過去形 11. 演習 (複合過去形) 12. 条件法・接続法 13. 演習 (条件法・接続法) 14. まとめ 15. 総復習・試験 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	教室にてプリント配布, また参考書・辞書等指示 参考: プチロワイヤル仏和辞典 (旺文社), コンコルド和仏辞典 (白水社)				
準備学習の 具体的内容	通常授業の中で頻繁に行われる演習の際, 常に既習仏語文法項目を確認, 復習, 整理すること。				
評価の方法 基 準	通常の授業の取り組み (30%) 課題 (30%) 複数回予定の小試験 (20%) 定期試験 (20%) の総合評価				
履 修 上 の 注 意	前後期通じて第二外国語・フランス語を学習するので, 基本的に後期の受講は, 前期履修者, またはフランス語学習経験あり, とする。				

学 科	両学科	担 当 教 員	及川 直樹		
授 業 科 目	健康科学概論		科目区分	基礎科目	1 単 位
必修・選択	保育 必修 服美 選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・通年 (1/4)
授業の主題 目 標	<p>本授業では、健康を支える要素として、主に運動・スポーツを取り上げ、それらがもつ体力の保持・増進や、ストレス解消、レクリエーションといった機能を体験的に理解します。 ※授業は、後期の12月頃から7回行います。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、ペアストレッチの効能の実践的理解 2. 運動・スポーツの意義：体力や生活リズムの向上、ストレス解消等の実践的理解 3. 体力の向上のためのトレーニングの実践的理解 4. 自己の体力の理解①体力テストの実践 5. 自己の体力の理解②体力テストの評価 6. 体力の向上を意図した運動・スポーツ 7. レクリエーション機能を重視した運動・スポーツ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>『大学生のスポーツと健康生活』（福岡大学スポーツ科学部） 『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 必要に応じて、適宜資料を配布します。</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>普段から生活リズムを整え、自己の健康の保持に努めること。</p>				
評価の方法 基 準	<p>各回の実践内容に関する提出物（100%）</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>本授業は通年科目のため、履修登録は前期に行うこと。なお、「スポーツ」と内容を組み合わせて行うため、服飾美術学科の学生は、可能であれば「スポーツ」と本授業をセットで履修することを勧めます（「スポーツ」を履修せずに、本授業のみを履修することはできません）。</p>				

学 科	両学科	担 当 教 員	及川 直樹		
授 業 科 目	スポーツ	科目区分	基礎科目	1 単 位	
必修・選択	保育 必修 服美 選択	授業形態	実技	開 講 時 期	1年次・通年 (3/4)
授業の主題 標	<p>本授業では、運動・スポーツに親しむ姿勢を育むとともに、必要な技能を身に付け、体力の維持・増進を図るために、様々なスポーツを実践します。</p> <p>※授業は、前期から後期中頃までの 23 回で、体育館で行います。必ずジャージ等の運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨んでください。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、プリズンボール 2. アルティメット①：基礎的技能の練習 3. アルティメット②：応用的技能の練習 4. アルティメット③：ゲームとスキルテスト 5. フットサル①：基礎的技能の練習 6. フットサル②：応用的技能の練習 7. フットサル③：ゲームとスキルテスト 8. 卓球（ダブルス）①：基礎的技能の練習 9. 卓球（ダブルス）②：応用的技能の練習 10. 卓球（ダブルス）③：ゲーム 11. 卓球（ダブルス）④：ゲームとスキルテスト 12. ソフトバレーボール①：基礎的技能の練習 13. ソフトバレーボール②：応用的技能の練習 14. ソフトバレーボール③：ゲーム 15. ソフトバレーボール④：ゲームとスキルテスト 16. バドミントン（ダブルス）①：基礎的技能の練習 17. バドミントン（ダブルス）②：応用的技能の練習 18. バドミントン（ダブルス）③：ゲーム 19. バドミントン（ダブルス）④：ゲームとスキルテスト 20. バasketボール①：基礎的技能の練習 21. バasketボール②：応用的技能の練習 22. バasketボール③：ゲーム 23. バasketボール④：ゲームとスキルテスト <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>『観るまえに読む大修館スポーツルール 2021』（大修館書店編集部）</p> <p>『幼稚園教育要領』</p> <p>必要に応じて、適宜資料を配布します。</p>				
準備学習の 具体的内容	普段から軽い運動（体操やストレッチ、ウォーキング等）を行い、体力や体調の維持に努めること。				
評価の方法 基 準	各運動に取り組む姿勢、会場設営や所属チームへの貢献度（10%） スキルテスト（90%）				
履 修 上 の 注 意	寒暖差の大きい体育館で、身体的負荷の大きい運動・スポーツを安全に行うため、授業に臨む意識が高く、教員の指示に従いながら積極的に実技に取り組むことのできる学生のみ履修すること。				